

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	太田 浩子 (****年**月**日)
本籍	*****
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)
学位授与番号	乙第37号
学位授与日	令和3年9月22日
学位授与の要件	学位規程第3条第4項該当
論文題目	薬物療法を受ける男性肺がん患者の Hope に関する研究
審査委員	教授 守屋 文夫 教授 竹田 恵子 教授 波川 京子

博士論文内容の要旨

本研究では、薬物療法を受ける男性肺がん患者の心理社会的な生きる力である Hope の特徴や、それらをもつための日常生活にある心理的支えや影響要因を明らかにすることを目的とした。当該患者 13 名につき、Herth hope Index (HHI) により Hope の高低を分類し、それぞれの語りから Hope と心理的支えの内容分析を行った。その結果、HHI 点数の低い当該患者には、Hope の中で【決める】及び【築く】ならびに【味わう】の〈病を味わう〉を高めるための看護介入が特に重要であることが明らかとなった。また、当該患者にとって、妻や孫、家族などの存在、罹患後に出会う医師、看護師、同病者などが心理的支えとなっていることが明らかとなった。一方、初回薬物療法を受ける男性肺がん患者 16 名について、薬物治療の開始前後における HHI 点数の変化を検討したところ、HHI 点数に有意な変化は見られなかった。しかし、配偶者の有無及び 65 歳未満ならびに副作用の嘔気が、HHI 点数への影響要因であることが示唆され、それらを考慮した看護介入が必要と考えられた。

博士論文審査結果の要旨

薬物療法を受ける男性肺がん患者の Hope を明らかにした研究は国内外においてなされておらず、本研究の独自性は高い。本研究では、HHI 点数の高い患者の Hope のうち【決める】及び【築く】ならびに【味わう】の〈病を味わう〉は、肺がんになったことで出会う医師、看護師、同病者などとの関係性の中で持ち得るものであること、また Hope の高い患者は日常生活上の些細な心理的支え（妻や孫などの家族、治療にかかわる医師や看護師、同病者、趣味など）が多いことを見出している。それらは、HHI 点数の低い当該患者の「前向きに生きる力」を高めるための看護介入を行う上での着眼ポイントであり、意義ある知見である。なお、博士論文審査会及び最終試験において、1) 抽出された Hope が薬物療法を受ける男性肺がん患者特有のものであることの説明、2) 【味わう】の定義、及び 3) 妻の自己効力感についての説明、を博士論文に加筆することが求められた。本研究で得られた知見はがん看護の発展に大いに資するものと判断されることから、上記加筆を条件に博士論文審査結果は「合格」とする。